



行政視察内容報告書

令和2年11月26日

土佐清水市議会
議長 永野 裕夫 様

(提出者) 会派名 新風会
氏名 細川 博史



下記のとおり報告します。

項目	<input checked="" type="checkbox"/> 現地調査 <input type="checkbox"/> 研修会への参加	<input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 会議への参加	<input type="checkbox"/> 要請・陳情関係 <input type="checkbox"/> その他 ()
参加者	永野裕夫、山崎誠一、弘田条、細川博史		
	計 4 人		
期日	令和 2 年 11 月 5 日 ~ 令和 2 年 11 月 6 日		

【概要】(年月日・場所・内容)

日時 令和2年11月5日

場所 荒川電気テクニカルセンター(高知市瀬戸)

内容 (仮称)今ノ山風力発電事業の環境アセスメント内容について更に詳しい学習を行い、市民に説明できるための学習を行う。

1. 荒川電気テクニカルセンターを訪問し、(仮称)今ノ山風力発電事業環境評価方法書をあらましの内容に沿って、社員より説明を行われた。

①環境影響評価の手續について

②事業概要

事業者 日立サステナブルエナジー株式会社

出力・基数 38,000kw 最大9基

位置 土佐清水市・三原村の行政界付近の稜線

風力発電機の概要

出力 最大4,200kw程度

ローター直径 細田115.7m

ハブの高さ 92m

風力発電機の高さ 最大149.9m

工事工程の概要

事業実施想定区域の検討方法

風力発電機の配置計画の複数案の設定

対象事業実施区域の設定

③主要な現況調査の概要について

①大気質、騒音及び超低周波音

②水質

③動物（哺乳類・一般鳥類・爬虫類・両生類・昆虫類・魚類・底生動物・希少猛禽類・渡り鳥）

④植物、生態系

⑤景観

⑥人と自然との触れ合い活動の場

説明後、質疑応答に移りました。

各議員から、それぞれの考えや疑問、メリット・デメリットなどについて質疑が行われました。

やはり、心配な点として、騒音問題（超低周波等）、人体への影響、設置場所、安全性の確保、今ノ山への輸送方法、住民への周知徹底はしっかり出来ているかがあげられました。騒音問題や人体への影響は科学的には無いとのことですが、住民としてはやはり不安だと思ふ。今後も住民への説明を行って行ってほしい。

日時 令和2年11月6日

場所 梶原町役場及び風力発電施設

内容 梶原町環境整備課を訪問し、職員の石川さんをお願いして、「自然エネルギーによるまちづくり」と題した風力発電等について30分程度説明を受けながら学習を行った。

1. 梶原町の概要

雄大な四国カルスト高原を有する四国山地の山間地帯に属し、四万十川の溪谷を急峻な山々に囲まれた人口3,608人の町。

環境対策への取組

森、水、風、光などの自然や、それらが持つエネルギーを使いながら町づくりを進めている。

風

梶原町風力発電所の概要

施設等の概要

設置場所 四国カルスト
総工費 4億4,500万円
生産国 デンマーク製
発電能力 600kw×2基
運用開始 平成11年11月1日より(22年目)
現在 2,000kw 計画中

稼働等の状況 (平成27年～令和元年)5年間
年平均発電量 2,165Mwh
計画発電量 3,000Mwh
売電単価 12.07円/kwh(平成22・23・24年)
17.83円/kwh(平成24年)
19.25円/kwh(平成25～令和2年)
7.15円/kwh(令和2年3月～)

光

太陽光発電施設(設置状況)

一般家庭(令和2年3月末時点)

設置戸数 160戸

発電出力 約695kwh

公共施設(梶原町 33施設)

発電出力 535.9kwh

水

水力発電所

事業名 平成20年度まちづくり交付金事業(13年目)

落差 約6m

発電出力 53kw

工事費 20億1,600万円

活用法 昼間 小中一貫教育校(梶原学園)

夜間 町中の街路灯82基

森

ゆすはらペレット工場の概要

事業名 地域バイオマス利活用交付金事業(平成20年)13年目

運営 第3セクターゆすはらペレット(株)

事業主 平成 19 年 5 月（操業開始 平成 20 年 4 月）
事業内容 木質ペレット製造販売（1,700 t /年）

木質ペレットとは、おが屑や細かく砕いた木を高温、高圧で固めた物で、直径 6～8 mm、長さ 20 mm 程度のもの。

木質ペレット燃料消費機器の設置状況

木質ペレット焚冷暖房機、給湯器	11 基
木質ペレットストーブ	10 基
園芸ハウス用温風器	3 基

環境学習への取組

手作り太陽光発電事業

梶原学園（中学生）、地域住民

太陽光発電やエネルギーの仕組みづくりを学習。

小学生の社会科見学

自然エネルギーや省エネの大切さを学習。

説明が終わり、質疑応答を行った。

四国カルストの風力発電に対して景観を損なうのではないかと、不平不満が町民からなかったのかとの質疑には無かったとの回答でした。

電柱が 1 本もたっていない、水力発電を活用した街路灯等の景観は美しかった。その地域の景観が保たれていると感じました。

四国カルストに設置された風力発電施設の現地見学を行った。

四国カルストの愛媛県道・高知県道 383 号（四国カルスト公園縦断線）は「天空の道」とも通称されるドライブルートになっており、尾根上を走る四国カルストの標高 1,300m の高所に位置し、年間平均風速 7.2m/s という風を利用して風車が 2 基設置されている。

600kw の発電能力をもち、年間平均売電額は 3,000 万円を超え、年間 1,000 万円以上の黒字になるとのこと。

平地に比べてかなりの温度差があり、かなりの風が吹き荒れていました。風車の音よりも、風の音が大きく、風車の音は全く気になりませんでした。また、県外車の多さにもびっくりしました。

梶原町は自然に配慮した様々な取組を行っており、環境に留意した町づくりは、温室効果ガス排出量削減にも大いに貢献していると分かりました。天狗高原も近くにあり、観光がてら風車も見に来るなど、山の上に観光の役割も果たしており、観光名所が成り立っていると思いました。